

アクリルフィルム開発

化学メーカーのクラレ（本社東京、本店倉敷市酒津）は、透明度が高く、白くなりくいアクリルフィルムを開発し、来年1月から本格販売を始める。これ

クラレ

までアクリル板は手掛けてきたが、フィルム市場には新規参入。自動車部材や建材などでの需要を見込み、5年後に売上高20億円を目指す。（重成啓子）

新規参入 売上高20億円目標

同社によると、新開発のアクリルフィルム「パラビュア」は、独自の原料を用い、化学反応の条件などを工夫。光の透過率が一般的なガラスの90%を上回るなど透明度が高いという。従来のアクリルフィルムは柔軟性を持たせるため、

ゴム粒子を配合。高温環境下や曲げ加工の際に白くなりやすいのが弱点だったが、特殊なゴム粒子を入れることで白化現象を防ぐようにした。このほか紫外線などによる劣化を防ぐといった特性もある。着色や印刷も可能で、厚みは50〜5

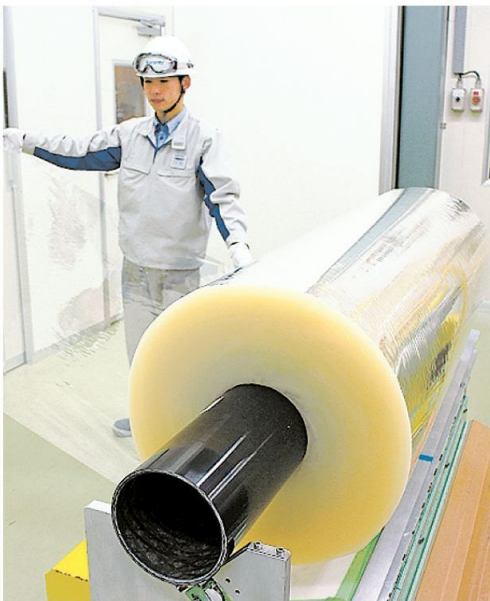
00^{ミリメートル}。自動車では内装部品の表面を覆うコーティングフィルム、建築関連では建材の耐候性を高める化粧シートや窓枠の保護フィルムなどに使え、既に一部メーカーで採用されている。

今後は透明度をさらに高め、めっきや塗装の代替用途のほか、液晶のバックライト用など光学分野向けのラインアップも増やす計画。アクリルフィルムの世界市場規模は年間4千万平方^{メートル}といいい、将来的に20%のシェア獲得を目指す。

製造はアクリル板を手掛けている新潟事業所（新潟県胎内市）が担当。

生産能力は年間1千万平方^{メートル}。価格は他社製品より割高になるが、同社は「アクリル製品に求められる透明度を最大限に発揮した高付加価値製品で、新たな市場を開拓していく」としている。

白化防ぎ高い透明度



クラレが開発した透明度の高いアクリルフィルム